

特集展示

井口古今堂と近代大阪

—船場の表具師と芸術ネットワーク—

2021年9月4日(土)～10月24日(日)

井口古今堂は、天保元年（1830）曾根崎に創業し、慶應年間から船場を拠点として5代にわたって活躍した表具の老舗です。住友家、藤田家をはじめ在阪名家の仕事を多数手掛けました。またみずからも画事、煎茶、俳諧などひろく文芸に通じ、コレクターや船場の画家たちが出入りする文化サロンとしての役割をも演じました。近年の調査の成果を踏まえ、井口古今堂を中心とした近代大阪の芸術文化の躍動をご紹介します。



長尾雨山《行書古今堂》扁額 昭和14年(1939)



上田耕甫（琴浦桐山窯）《山津波茶碗 銘霖雨》
昭和13年(1938)
六甲の山津波の際、須磨の住友本邸に流入した
土砂で制作した。

井口邨僕・上島鳳山・山田秋坪・
岡本大更・北野恒富・水田竹園
《大津絵寄書屏風》 明治～大正時代



(伝)易元吉《白鶩図》 清時代
本館蔵(阿部コレクション)
井口古今堂による表装。

社寺縁起 — 聖なるファンタジー

2021年9月4日(土)～10月24日(日)

社寺草創の由来、祀られた神仏の靈験を語るさまざまな社寺縁起関連作品を、館蔵および寄託作品あわせて大公開します。神仏と人との間に起こった摩訶不思議な出来事＝聖なるファンタジーの世界をどうぞお楽しみください。



《犬寺縁起絵巻》巻下(部分) 江戸時代・17世紀 本館蔵(田万コレクション)



狩野永納筆《菅生宮縁起絵巻》巻下(部分) 延宝8年(1680) 大阪・菅生天満宮蔵